

# 積水樹脂株式会社

東証プライム 証券コード:4212

SEKISUI  
JUSHI

社会の景色に、安全と心地よさを。

## 2025年3月期 第2四半期(中間期)決算説明資料

2024年10月

積水樹脂株式会社

70<sup>th</sup>  
anniversary

2024年11月、積水樹脂株式会社は創立70周年を迎えます

1. 2025年3月期 第2四半期(中間期)決算概要
2. 2025年3月期 通期 業績予想

# ハイライト

## 上期業績は、増収減益

- 売上高は、前期に経営権を取得したWEMASグループおよび(株)エクスタイルの損益を、当期から取り込んだことにより増収
- 利益面は、既存事業における売上総利益の減少と、人的資本投資を始めとする将来へ向けた投資の継続や輸送費率上昇などによる費用増加により減益

## 通期業績予想は利益を下方修正するが、下期業績は、期初予想を上回る見通し

- 活況分野における販売増加や、上期から遅延していた物件の実績化などにより、下期の売上高は期初予想を上回る見通し
- それにより上期の利益減分を一部取り返し、通期では60億円の営業利益を確保できる見通し

## 新たな株主還元方針に基づく、剰余金配当や自己株式取得の推進

- 中間配当は、期初予想通りの35円(前期より2円増配)  
年間配当予想も70円を据え置く(16期連続の増配予定)
- 自己株式150万株の取得を完了(11月1日に消却予定)。さらに30万株の取得枠を追加

# 1. 2025年3月期 第2四半期 決算概要 (中間期)



## 連結業績(概要)

売上高はM&Aした2社の売上が上乘せされたことで前期より増も、成長投資推進に加え、既存事業による利益額の減少と、M&Aに伴うのれんの償却影響等により減益

(注)金額は単位未満切捨

(百万円)	2024年3月期 中間期		2025年3月期 中間期				
	実績 構成比	予想(※) 構成比	実績 構成比	予想比		前年同期比	
				増減額	達成率	増減額	伸長率
売上高	27,886 100.0%	33,300 100.0%	33,053 100.0%	▲246	99.3%	+5,166	+18.5%
営業利益	2,529 9.1%	2,600 7.8%	1,694 5.1%	▲905	65.2%	▲834	▲33.0%
経常利益	2,837 10.2%	2,850 8.6%	1,910 5.8%	▲939	67.0%	▲927	▲32.7%
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,944 7.0%	2,020 6.1%	964 2.9%	▲1,055	47.7%	▲980	▲50.4%
EBITDA (営業利益+減価償却費 +のれん償却額)	3,113 11.2%	-	3,430 10.4%	-	-	+317	+10.2%

※ 2024年5月13日公表の2025年3月期第2四半期(中間期)の連結業績予想

## 営業利益増減分析

### ■ 連結業績

(注)金額は単位未満切捨

(百万円、%)	2024年3月期 中間期 実績 構成比	2025年3月期 中間期	
		実績 構成比	前年同期比 増減額 伸長率
売上高	27,886 (100.0%)	33,053 (100.0%)	+5,166 +18.5%
売上総利益	8,430 (30.2%)	10,091 (30.5%)	+1,660 +19.7%
販売費・一般管理費	5,901 (21.2%)	8,396 (25.4%)	+2,494 +42.3%
営業利益	2,529 (9.1%)	1,694 (5.1%)	▲834 ▲33.0%
EBITDA	3,113 (11.2%)	3,430 (10.4%)	+317 +10.2%

### 営業利益の前年同期比分析

#### ■ 新規M&A(2社)に伴う影響 +66

売上総利益の増 +1,942  
 販売・一般管理費の増 ▲1,876  
 (うち のれん償却額 ▲905)

#### ■ 既存事業における影響 ▲900

売上総利益の減 ▲282  
 販売費・一般管理費の増 ▲618  
 (主に労務費、輸送費の増)

※ 投資差額の配分(PPA)は未確定であり、第2四半期(中間期)においては暫定的な会計手続きによりのれん償却額を反映させております

## 業績予想との乖離要因

(注)金額は単位未満切捨

(百万円、%)	2024年3月期 中間期			
	業績予想 (構成比)	実績 (構成比)	予想比	達成率
売上高	33,300 (100.0%)	33,053 (100.0%)	▲246	99.3%
営業利益	2,600 (7.8%)	1,694 (5.1%)	▲905	65.2%
経常利益	2,850 (8.6%)	1,910 (5.8%)	▲939	67.0%

売上高：・連結子会社化したWEMASグループは、堅調な業績に加え、円安影響もあり  
 期初想定を上回る  
 ・既存事業において、期初想定を上回る事業もあるなか、**公共分野の景観関連事業、  
 民間分野の住建関連事業**が 期初の見込みを下回る。また、公共分野の関連グループ  
 会社事業が工期の遅延や長期化の影響を大きく受け、売上減

営業利益：・**高収益の景観関連事業や住建関連事業の売上高に占める割合が低下したことが、  
 全体の収益性を押し下げる**  
 ・公共分野の関連グループ会社事業の売上減による利益の減少  
 ・民間分野の関連グループ会社事業について、**期初想定を上回る原材料価格(アルミ)の  
 上昇による影響**  
 ・WEMASグループは、**のれん償却額を加味した営業利益ベースで若干の増額**

## 売上高・セグメント利益

(注)金額は単位未満切捨

- ・WEMASグループの売上計上があり、増収
- ・既存事業の売上高の減少による利益減、人的資本投資、成長投資推進による費用増加のため、WEMASグループののれん影響も合わせてセグメント利益は大きく減少

(百万円)	2024年3月期 中間期		2025年3月期 中間期			
	実績	構成比	実績	構成比	前年同期比	
					増減額	伸長率
売上高	11,601	100.0%	16,162	100.0%	+4,560	+39.3%
セグメント利益	755	6.5%	442	2.7%	▲313	▲41.5%

### ■ 増減の内訳

(百万円)	増減額	内M&A	内既存	のれん
売上高	+4,560	+4,812	▲252	-
セグメント利益	▲313	+871	▲339	▲845

## 事業概況

- 都市環境関連事業 ↑
  - 防音壁材は、高速道路関連大型工事の端境期であることや工期の長期化・遅延の影響を受けながらも、前年同期を上回る
- 交通・標識関連事業 ↑
  - 交通安全製品は、電子製品が好調、車線分離標「ポールコーン」も堅調で、前年同期を上回る
- 景観関連事業 ↓↓
  - 防護柵製品は、交差点・通学路の前期までの集中整備が一巡したことにより、大幅な売上減となり、高欄は、昨年好調だった反動を受け、前年同期を下回る
- スポーツ施設関連事業 ↑
  - 人工芝はグラウンド用途や民間テニスクラブ向けに採用され、前年同期を上回る
- 関連グループ会社事業 ↑↑
  - 高速道路の路面標示工事や構造物メンテナンス工事において、先行指標となる工事の受注は前年同期を上回るも、工期変更の影響を大きく受け、前年同期を大きく下回ったが、連結子会社化したWEMASグループについては、仮設道路保安用品の売上が堅調に推移

## 売上高・セグメント利益

- ・総物・アグリ事業の売上増、エクスタイルの売上計上により増収
- ・プラメタルの原材料(アルミ)高騰による利益減と、人的資本投資、成長投資推進による費用増加のため減益

(注)金額は単位未満切捨

(百万円)	2024年3月期 中間期		2025年3月期 中間期			
	実績	構成比	実績	構成比	前年同期比	
					増減額	伸長率
売上高	16,285	100.0%	16,891	100.0%	+606	+3.7%
セグメント利益	2,158	13.3%	1,684	10.0%	▲474	▲22.0%

### ■ 増減の内訳

(百万円)	増減額	内M&A	内既存	のれん
売上高	+606	+361	+245	-
セグメント利益	▲474	+101	▲514	▲61

## 事業概況

- 住建関連事業 →
  - メッシュフェンスは、集合住宅向けは堅調に推移するも、業界全体における施工職人不足からくる建築着工停滞の影響を受け、前年同期を下回る
  - めかくし塀は、防音機能や意匠性を備えた製品の提案を強化した結果、売上伸長となる
- 総物・アグリ関連事業 ↑
  - 梱包結束用バンドは、3R対応製品の提案強化をするも、汎用品の需要が低迷し、前年同期を下回る
  - ストレッチフィルム包装機は、省人化のニーズ高まりにより好調に推移
  - アグリ関連製品は、需要が回復基調に転じつつあり順調な伸びを示す
- 関連グループ会社事業 ↑
  - アルミ樹脂積層複合板の看板用途が好調だったものの、防音パネルが解体工事市況の一服感から低調に推移し、大幅な売上減となる
  - 連結子会社化したエクスタイルの売上が寄与

## 連結貸借対照表(概要)

- 固定資産の増分：主に減価償却費を上回る設備投資の実施(人的資本投資としての職場環境の改善等)、のれんにかかる為替影響
- 純資産の減分：主に自己株式の取得による減

(注)金額は単位未満切捨

(百万円)	2024年3月期 期末	2025年3月期 中間期末	増減額
流動資産	53,048	47,739	▲5,309
固定資産	80,221	82,226	+2,005
資産合計	133,269	129,966	▲3,303
流動負債	30,061	27,936	▲2,125
固定負債	4,379	4,627	+248
負債合計	34,440	32,564	▲1,876
純資産合計	98,829	97,401	▲1,427
負債純資産合計	133,269	129,966	▲3,303
自己資本比率	72.9%	73.7%	+0.8pt

## 連結キャッシュ・フロー計算書(概要)

### ■ 投資活動によるキャッシュ・フロー：有形固定資産の取得 他

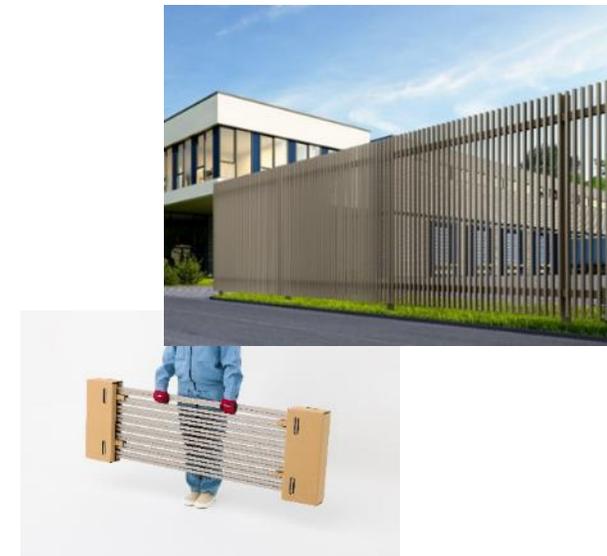
(注)金額は単位未満切捨

(百万円)	2024年3月期 中間期	2025年3月期 中間期	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	4,002	5,269	+1,266
投資活動による キャッシュ・フロー	▲81	▲881	▲799
財務活動による キャッシュ・フロー	▲18,098	▲5,260	+12,838
現金及び現金同等物に係る 換算差額	386	340	▲46
現金及び現金同等物 増減額(▲は減少)	▲13,791	▲532	+13,258
現金及び現金同等物 期首残高	44,905	15,167	▲29,737
現金及び現金同等物 期末残高	31,114	14,634	▲16,479

## 上期トピックス

### ■ 建設業や物流業の2024年問題に対応する、 4分割パネル型縦格子フェンス“テトラフェンス”新発売 (2024年6月)

縦格子フェンス業界初のパネルを4分割型にした“テトラフェンス”を発売。  
梱包単位当たりの軽量化・小型化により運搬性を向上させると共に、  
当社従来品より部材点数を削減。  
今後も環境に加え、省人・省力化に対応した製品の開発を進めていきます。



### ■ 道路・鉄道向け騒音対策製品「長耐久ガラスコーティング透明板」が 国土交通省の新技术情報提供システム「NETIS」に登録 (2024年8月)

ポリカーボネート板の表面に特殊なガラスコーティングを施した  
道路・鉄道向け騒音対策製品。  
コーティング効果によって、当社従来品より耐候性を2倍以上向上させ、  
黄変を抑制させることで眺望性能の維持が可能に。  
製品ライフサイクルコストの向上が期待できます。



## ■ CI(コーポレート・アイデンティティ)・VI(ビジュアル・アイデンティティ)を刷新 グループスローガンを制定 (2024年7月)

創立70周年を機にロゴマークを刷新するとともに、その先の100年企業へと成長していくことを見据え、あらためて「自分たちの目指すところやありたい姿、どんな価値を提供していくのか」について役員・従業員全員で検討し、グループスローガンおよびステートメントを制定しました。

今後、このグループスローガンとステートメントのもと、グループ一丸となって企業価値の向上に努めてまいります。

【グループスローガン、ステートメント】

社会の景色に、安全と心地よさを。

目に見えない安全や心地よさを、実際のカタチにする。  
いつものまち、くらしの風景をもっと良いものにする。

積水樹脂グループは、社会に生きる一人ひとりの想いや時代のニーズに、多様に応えていく会社。  
異なるモノやコトを掛け合わせる複合力を強みとし、  
交通や防災・減災、防音やバリアフリー、スポーツフィールドや農業支援など、  
様々な世の中の課題に応え、もっとやさしい未来づくりに挑みます。

私たちは仕事を通してワクワクし、ユニークな発想とオリジナルの技術で、  
日々の安全や快適、環境性をアップデートしたい。うれしい未来をかなえたい。  
あなたが街なかで気づく、小さな感動を共有したい。

これまでにない安全と心地よさで、新しい社会の景色をひらく。  
私たちは、積水樹脂グループです。

## ■ 当社グループでは初となる「統合報告書」を発行 (2024年8月)

これまでの「サステナビリティ・レポート」をさらに充実させ、財務・非財務情報を統合的に報告する「統合報告書 2024」を当社として初めて発行しました。  
株主・投資家の皆さまをはじめとする全てのステークホルダーに対し、持続可能な企業としての責任と当社グループの取り組みへの理解を深めていただくことを目的にしています。



## 2. 2025年3月期 通期 業績予想



## 2025年3月期の通期業績予想

通期業績予想について、上期の実績や下期の事業環境を勘案し、修正

単位:百万円	2024年3月期 通期実績		2025年3月期 通期予想						
	金額	構成比	[当初]		[修正]		当初予想比	前年同期比	
			金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減額	伸長率
売上高	62,790	100.0%	75,500	100.0%	76,500	100.0%	+1,000	+13,709	+21.8%
営業利益	6,298	10.0%	6,500	8.6%	6,000	7.8%	▲500	▲298	▲4.7%
経常利益	6,969	11.1%	7,000	9.3%	6,150	8.0%	▲850	▲819	▲11.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,671	7.4%	4,850	6.4%	3,650	4.8%	▲1,200	▲1,021	▲21.9%
ROE (自己資本当期純利益率)	4.5%		5.0%		3.8%				

## 2025年3月期の下期連結業績予想（通期予想 - 上期実績）

下期の営業利益については、期初予想を上回る見通し

売上高 : 活況分野における販売増加や、遅延物件の実績化などにより増加

営業利益 : 売上高の増加に加えて、高収益事業の比率拡大などにより利益を創出

単位:百万円	2024年3月期 下期実績		2025年3月期 下期予想						
	金額	構成比	[当初]		[修正]		当初予想比	前年同期比	
			金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減額	伸長率
売上高	34,903	100.0%	42,200	100.0%	43,446	100.0%	+1,246	+8,542	+24.5%
営業利益	3,769	10.8%	3,900	9.2%	4,305	9.9%	+405	+535	+14.2%
経常利益	4,131	11.8%	4,150	9.8%	4,239	9.8%	+89	+108	+2.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,727	7.8%	2,830	6.7%	2,685	6.2%	▲144	▲41	▲1.5%

## 下期の注力事項 ①

### 既存領域における売上拡大(公共分野)

- 都市環境関連事業
  - ・建設が進む整備新幹線など鉄道市場への展開を見込む
  - ・道路市場でも高耐久ガラスコーティング透明板の実績化などを見込む
- 交通・標識関連事業
  - ・自転車通行空間やゾーン30プラスなど、通学路の交通安全対策に貢献する交通安全製品や道路標示製品の提案を強化
- 景観関連事業
  - ・交差点・通学路の安全対策製品の提案に加えて、河川・港湾など人や自転車の転落防止を目的とした防護柵の販売を強化
  - ・首都圏での設計対応力強化に向け、2024年4月に新たに設置した東京設計室での上期の設計対応案件を実績化
- 関連グループ会社事業
  - ・上期に工期遅延していた工事物件の実績化を見込む

## 下期の注力事項 ②

### 既存領域における売上拡大(民間分野)

- 住建関連事業・都市圏において活況な施設建築物などへの設計折込案件の獲得を見込む
- 総物・アグリ  
関連事業  
・マシン製品のストック物件の早期実績化と、物流業界における省人・省力化のニーズを背景とした受注上積みを図る  
・アグリ製品に関しても引き続き堅調な需要を見込む

### 新規領域における売上拡大

- 電力インフラ需要の取り込み本格化  
電力インフラ分野への進出を本格化し、増加する再生可能エネルギー等の広域送電・配電需要を取り込む

### 収益性の改善

- 価格改定の効果発現  
原材料価格高騰を受けて、価格改定を表明している製品群について、早期に収益性を改善

## 人的資本の価値最大化への取り組み

- 「人的資本の価値最大化」や「成長戦略による拡大」の実現に向けて、賃金水準をあげていく方針のもと、給与改定を実施
- 持続的な成長に向けての体制強化として、採用活動を一層強化
- 「自ら考え、行動し、挑戦し続ける人財」を育む人財育成プログラムを発展させ、各プログラムの研修を継続して実施

## 製造部門における人的資本の価値最大化への取り組み

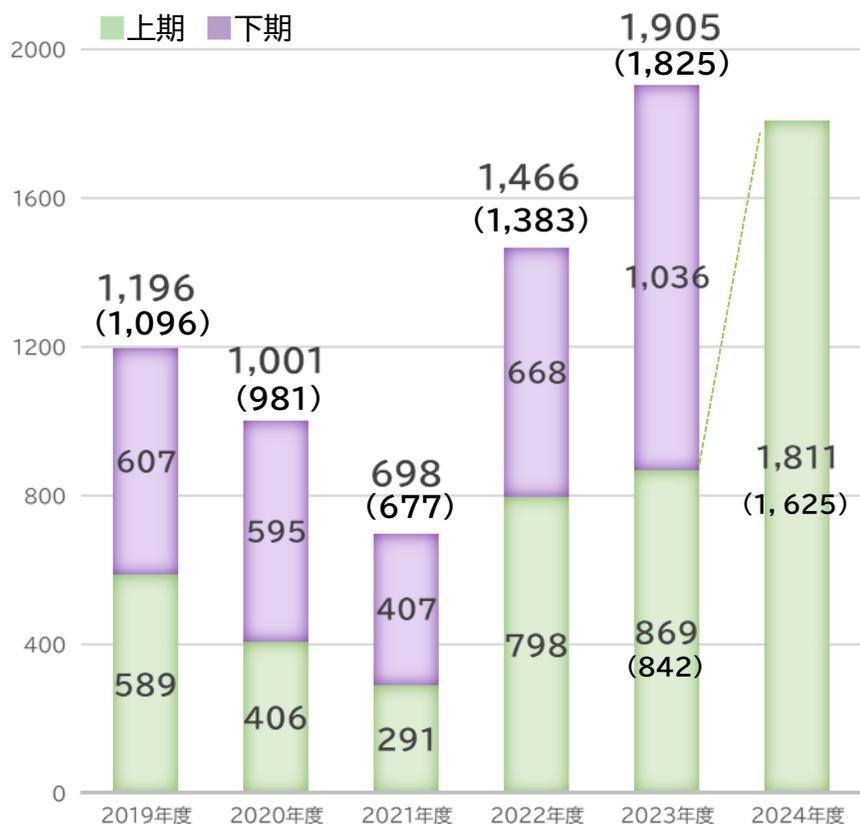
- 「ものづくり」競争力の強化を推進するとともに、製造部門における人的資本の価値最大化への取り組みを加速。当社グループの持続的成長を支える基盤構築を目的とし、生産子会社4社を吸収合併し、工場組織として再編
  - ・生産子会社4社:滋賀積水樹脂(株)、北陸積水樹脂(株)、土浦つくば積水樹脂(株)及び広島積水樹脂(株)
  - ・効力発生日:2024年11月1日

※当期連結業績に与える影響は軽微です。

## 設備投資・減価償却費の実績推移

単位:百万円/金額は単位未満切捨

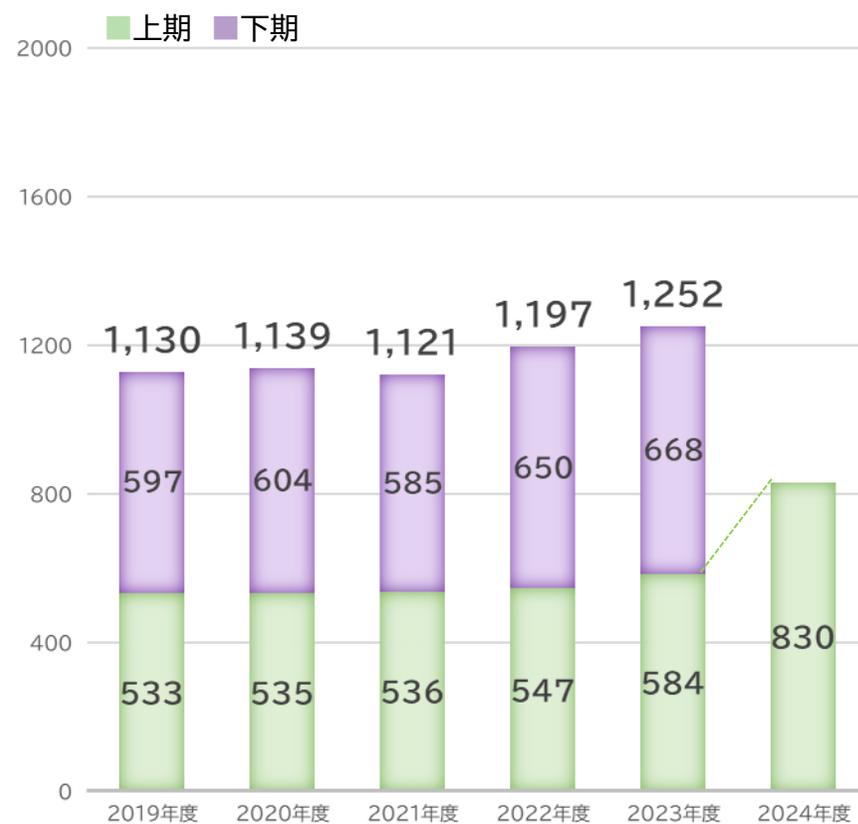
### 設備投資(有形及び無形固定資産)



※のれん除く

※( )表記は有形固定資産のみ

### 減価償却費



※のれん償却額除く

## 配当金

中間配当は前期より2円増配の35円(年間では16期連続の増配となる70円を予想)

## 自己株式取得・消却

<2024年10月29日付の取締役会決議に伴う追加取得分>

### 自己株式取得

取得株数:300,000株(上限)

取得金額:810,000,000円(上限)

取得する期間:2024年11月1日~2025年3月31日

<2024年5月13日付の取締役会決議に伴う取得分>

### 自己株式取得

取得株数:1,500,000株(上記決議に基づく全株式)

取得金額:3,581,042,454円

取得した期間:2024年5月15日~2024年9月19日

### 自己株式消却

消却株数:1,500,000株

消却予定日:2024年11月1日

## (ご参考) 還元目標

株主総還元の方針 : 2027年3月期まで、剰余金の配当と自己株式の取得を合わせた総還元性向については100%以上の維持を目指す。

配当金の方針 : 「積水樹脂グループビジョン2030」期間中(2030年3月期まで)は累進配当を基本方針として実施し、連結配当性向については40%以上の維持を目指す。

# 中期経営計画2027達成に向けた取り組み

## 来期以降に本格的な効果創出を見込む推進事項

### ■ 【グローバル】欧州での交通安全事業の拡大・シナジー創出

WEMASグループ

ドイツにおいて政府道路予算の伸びや新たな工事規則による仮設保安資材の需要増が見込まれることに加えて、欧州での交通安全事業のシナジー創出や拡大を加速させる。

### ■ 【国内】重点戦略地域と位置付ける「北海道」での展開強化

北海道地域を重点戦略地域と位置付け、建設が進む整備新幹線など鉄道市場への展開を行うとともに、道路での交通安全製品や、施設建築物などへの住建事業でのメッシュフェンス等の販売強化を行う。

### ■ 【国内】公共・民間両分野における受注ストックの着実な積み上げ

整備中の新幹線、大規模更新を行う高速道路の製品や住建製品に関しては、受注ストックを着実に積み上げて、実績化していく。

### ■ 【国内】社会課題解決に向けた総合提案の強化

- ・国土交通省が進める「人中心の道路空間の創出」にむけた公共分野製品の総合提案
- ・IoT、DX技術を活用した道路や河川における防災・減災製品の投入
- ・物流や建設の「2024年問題」に対応する省人・省力化に資する製品やサービスの開発

## ■内容に関するお問い合わせ先

コーポレート戦略本部 法務・広報部      06-6365-3288

## ■当社のホームページもあわせてご覧ください。

URL : <https://www.sekisuijushi.co.jp/>

本資料に記載されている将来に関する記述は、作成時点において入手可能な情報に基づくものであり、今後の事業環境の変化により、実際の業績が異なる可能性があります。